



広報 かがやま

人のうごき (50.9.1現在)

男	15,564人
女	16,565人
計	32,129人
世帯数	7,733

市民の憩いと研修の場へ

勝山市教育福祉会館

西小跡地で起工

来年九月に完成

市民待望の教育福祉会館新築工事の起工式が、敬老の日の十五日午前十時から建設現場の元町一丁目、元成器西小学校跡地で行われました。



高野市長がくわ入れ

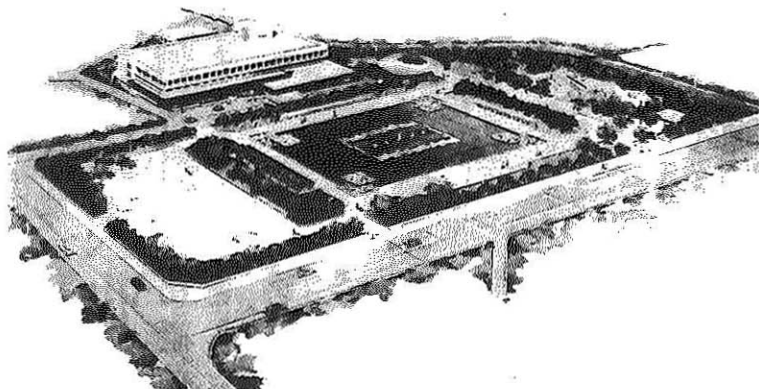
式には、同会館の建設基金を寄付された大阪市城東区関根町

真野平八郎専務、吉村良吉専務、市田秘書課長ら三人をはじめ高野市長、別田県議会議長、笠羽県議、勝山市議会議長、市議員、工事関係者、それに教育福祉関係代表者計八十人が出席しました。

神事に続いて施主高野市長と施工者がくわ入れをし、玉串を捧げて工事の無事を祈りました。

続いて高野市長は「敬老の日に教育福祉会館建設の起工式を挙げてきたことはまことに意義深く喜ばしいかぎりである。会館建設に当たって多田相互タクシー社長から寄せられた巨額のご寄付と愛郷心に対し、改めて心から敬意とお礼を申し上げるとともに多田社長のご意思を十分生かした施設になるよう施工者はもちろん市としても努力したい。また、完成のあかつきには市民が会館を十分活用し、教育福祉の向上に努めていただくことを念願する。工事施工にあたっては安全を第一にしてほしい」とあいさつしました。

教育福祉会館と中央公園（仮称）完成予想図



来賓祝辞は真野相互タクシー会社専務が多田社長の祝辞を代読、続いて別田県議会議長、勝

田市議会議長が祝辞をのべられ、起工式を終えました。

この新築工事は、真柄建設KK（本社・金沢市）KK山本組（同・勝山市）北陸電気工事KK（同・富山市）の三社により施工、来年九月十日完成を目指し、工事が始められました。

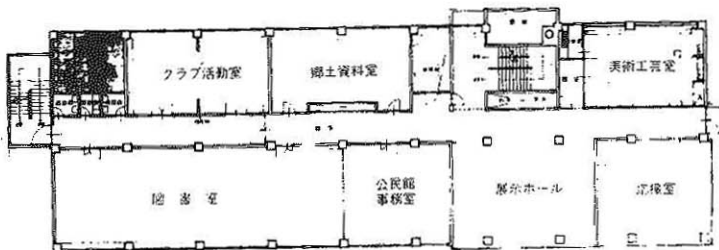
同会館は鉄筋コンクリート地上三階、地下一階で延べ面積三千六百九十二・四二平方メートル。総工費は昨年三月大阪の相互タクシー会社多田清社長からの寄付金二億五千万円とその利息その他計約四億二千万円。

一階は車いすでも自由に出入りができるスロープ、身障者専用便所、目の不自由な方のための手すりを設けるなど、身障者やお年寄りが十分活用できる福祉施設。二階、三階は夜間でも自由に使えるサークル室や研修室、図書室、視聴覚教室、郷土資料室など教育、研修の場として充実した施設となります。施設の平面図をご参照ください。

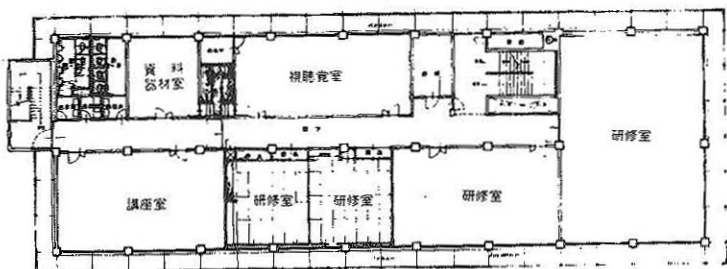
一方、同会館の周囲約九千七百平方メートルを中央公園（仮称）として、都市計画の公園事業として、総事業費一億一千万円で、第一期工事に八千万円（国庫補助四千万円）を投じ、近く着工することになっています。

同公園には、老人コーナー、児童遊園地のほか、横十メートル、縦二十メートルの噴水を備えた芝生園、自由広場、休養施設などが設けられ、園内にはマツ、ヒマラヤスギ、トチ、シラカシ、ユズリハ、ソメイヨシノなどの樹木が植栽され、四季を通じて市民の憩いの園となります。

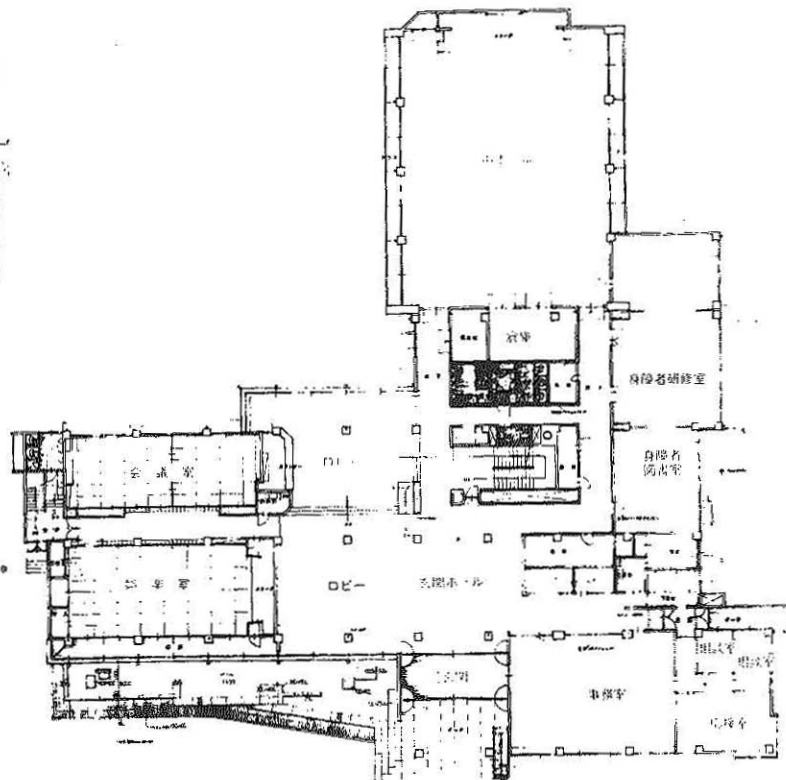
《2階平面図》



《3階平面図》



《1階平面図》



新議長に島田実也氏

副議長は西出蔵氏

改選後初の勝山市議会臨時会は、九月四日午前十一時三十分には開会され、新議長に島田実也氏(五七)、副議長に西出蔵氏(五七)が選ばれた。

正・副議長選挙は、四谷与一議員(五七)の動議で指名推薦となり、満場一致で両名がそれぞれ当選した。

続いて常任委員の選任があったほか、勝山市・大野市伝染病隔離病舎組合議会議員選挙は指名推薦で山内富栄氏(六三)、小林広氏(五七)、大平松三氏(五七)の三氏が当選。

大野・勝山地区広域行政事務

組合議会議員選挙も指名推薦により島田 香氏(五七)、今井三右衛門氏(五七)、四谷与一氏(五七)、畔川利通氏(五七)、齋藤貞夫氏(五七)の五氏が当選した。

勝山市教育・福祉会館新築工事請負契約の締結についてなど二議案は、原案どおり可決され午後四時閉会しました。

勝山市議会常任委員会委員は次のとおりです。(敬称略)

- 建設委員会
 - 委員長 水上 晟(五七)
 - 副委員長 乾 吉一(五七)
 - 委員 石田已代治(五七)

石田さんら六人を表彰

鈴木さんら四人に感謝状

市は市制二十一周年の九月一日午前十時から市民会館大会議室で、昭和五十年年度表彰式を行い、各分野での発展に寄与された方六人と教育福祉の充実のため多額の金銭や機器を寄付された四人に対し、それぞれ表彰状、感謝状、記念品を贈り、その功績を賞えました。

- 足立義春 44 本町二丁目 (遊技場経営)
- 中部中学校に音楽指導用品を寄付
- 宇佐美憲一 56 遅羽町比島 (土建業)
- 南部中学校に国旗掲揚塔を寄付

- 永年肢体障害者協会会長、青少年愛護センター補導員として、身体障害者の福祉増進、青少年の健全育成に貢献
- 山内九能 65 元町二丁目 (無職)
- 永年農業関係の要職を歴任、農業の振興に寄与

感謝状贈呈(敬称略)

- 野辺市次郎 85 京都市左京区北白川東小倉町、(会社社長)
- 猪野瀬公民館に社会教育機器一式を寄付
- 鈴木英一 43 昭和町一丁目 (会社員)

教育・福祉会館設備費に多額の金銭を寄付

- 石田已代治 57 鹿谷町東蓮羽口(農業)
- 永年市議会議員として地方自治発展に寄与
- 森本米吉 45 元町一丁目 (会社員)
- 交通指導員、成器西小学校PTA交通対策部長として交通安全事業に貢献
- 端場 隆 50 遅羽町崎崎(農業)

産業経済委員会

- 委員長 山内 清(五七)
- 副委員長 松村守蔵(五七)
- 委員 西出 蔵(五七)
- 山内富栄(六三)
- 島田 香(五七)

教育民生委員会

- 委員長 島田実也(五七)
- 副委員長 藤田直治(五七)
- 委員 横山定衛(五七)
- 今井三右衛門(五七)
- 大平松三(五七)
- 山内秋雄(六三)
- 松村誠一(五七)
- 山内一男(五七)

九月定例会も終る

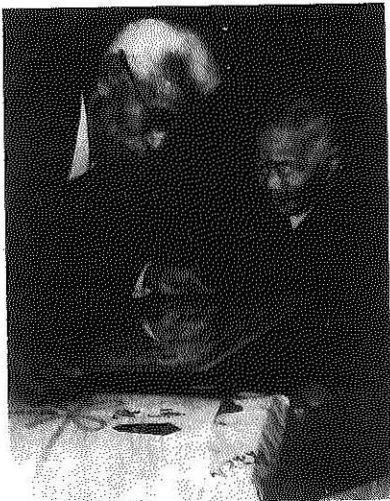
一般会計 一億三千三百三十万円などを上程

改選後初の市議会九月定例会は九月二十日招集され、会期を二十九日までの十日間と決めました。第一日は二十日午前十時三十分開会、市長招集のあいさつ、施政方針の表明のあと、一般会計補正予算一億三千三百三十万円など十一議案ほか昭和四十九年度勝山市水道事業会計決算を上程、提案理由の説明を行いました。会議の二日目一般質問、三日目一般質問のあと質疑、付託、二十五日から各常任委員会が開かれ、それぞれの議案を審査、二十九日日本会議を開いて採決されました。定例会での模様は次号に掲載いたします。

老人福祉週間に

百歳の中村さんら 60人を慰問

老人福祉週間に入って三日目の九月十七日、高野市長は満百歳の誕生日を迎えられた鹿谷町本郷の中村ひのさん(市内最高齢者)を訪ね、百歳の長寿をお祝いするとともにこれからもお元気で長生きしてほしいと慰問しました。



100才の中村さんを慰問した高野市長

タバコは
市内で

- 富田なつ(元町一) 落合ふく(元町二) 山口ハツ(栄町三)
- 福山弥太郎(猪野口) 田中ワス(高島) 旭つね(平泉寺町平泉寺) 松田しん(同) 松田より(平泉寺町赤尾) 竹原四郎左エ門(北谷町河合) 髭内と(同)
- 高田茂吉(野向町薬師神谷) 川島ゆり(荒土町松田) 鈴木新之丞(同) 平泉源雄(荒土町布市) 福田みどり(荒土町伊波) 石藤由太郎(鹿谷町西蓮羽口) 齋藤みさお(遅羽町大袋)



新しい救急車入る

日本船舶振興会が寄贈

このほど市消防署に新しい救急車が届けられました。日本船舶振興会(笹川良一会長)が日本消防協会(赤城宗徳会長)へ贈ったうちの一台で、さっそく入魂式を済ませ救急活動を開始しました。

同署にはこれまで日本自動車工業会から寄贈された救急車一台ありますが、五年の耐用年数が過ぎ、そのうえ乗用車を改造したもので救急活動が十分とはいえなかった。また、救急出動も四十七年七百七十三件、四十八年二百五十七件、四十九年二百五十七件と年々増加。ことしもすでに百七十七件(九月十五日現在)に上り、本格的な救急車の導入が望まれていました。

新しい救急車は、ニッサンキヤラパンの千六百cc。屋根が高いので、車内で応急処置ができて、一度に三、四人の搬送も可能で、拒薬、酸素ボンベ(五百リットル)人工呼吸器などの備品も積んでいます。

中国大使館参事官

尚夫妻ら市長を表敬訪問

五星旗ふってチビっ子も歓迎



高野市長を表敬訪問した尚参事官ら



チビっ子も五星旗で歓迎

日中友好協会(正統)県本部などの招きで来福された駐日中国大使館の尚向前参事官夫妻ら一行四人は、八月三十日高野市長を表敬訪問されたあと、労働者代表らと懇談されたり、繊維工場や保育所などを視察しました。

尚参事官夫妻ら一行は同日午前九時半、市役所に到着、さっそく市長を訪問、「緑の美しい町ですね」と市長らと握手され、市長も「心から歓迎します。小さな町ですが、自然に恵まれた人情の細やかなところ。産業は繊維と農業です」と市の概況を話されると、尚参事官は流ちょうな日本語でいろいろ質問されていました。

市長が特産の羽二重の反物を贈呈すると尚参事官は、中国明時代の見事な水墨画をアレゼントするなど和やかなうちに国際親善の輪を広げました。

一行は市民会館で市内労働界の代表らと懇談したあと、市内の繊維工場を視察、近代的な工場で生産される合繊織物に深い関心を示され、説明にあたっては会社の方に次々に質問されました。

このあと松文保育園(三層つなぎ園長)を訪ね、かわいい園児らの合唱や合奏に夫妻は、惜しみない拍手をおくり、何回も大きくうなづいておられました。夫妻ら一行は五星旗を振る園児やチビっ子隊に送られ、参事官も思わず園児らの頭を撫でられるなどほほえましい風景も見られ、日中友好親善を大いに深められました。

お年寄りに寄席気分を味わってもらおうと、勝山ロータリークラブ(松村宇市会長)が主催、市社会福祉協議会が後援して、老人福祉週間の十七日午後三時半から、元町一丁目正等寺(梅田蘭英住職)の本堂で「落語のつとよい」を開き、市内のお年寄り約二百五十人を招いて、生の落語を楽しんでもらいました。

この日、勝山市では初めての

ロータリークラブが 落語のつとよいを開く

お年寄り二五〇人を招待

「落語のつとよい」とあって、お年寄りは開演前から詰めかけ、開演時刻には広い本堂もぎっしり。主催者の松村会長があいさつ、高野市長がお祝いの言葉を述べた。

このつとよいには、「こんには赤ちゃん」上を向いて歩こうなどの作詞で有名な永六輔さん、テレビで活躍の落語家、柳家小三治さん、入船亭扇橋さんらが東京から馳つけ、はじめに永六輔さんが講演、続いて入船亭扇橋さんが「穴泥」を、柳家小三治さんが「コンニャク問答」それぞれの出し物で、落語の神髄を披露、熱演にお年寄りらも腹をかかえて爆笑、楽しい一時を過ごしました。

ある老人は、「落語は短いものと思いきや、こんでいたが、こんなになつぷり味わえたことは大変幸せでした。久振りに顔のしわのびた」と話していました。

今回のつとよいには、荒土町伊波出身の陶芸家、竹内彰さん(〇〇)日立市在住のお骨折りにより実現したものです。

第七回勝山市地区対抗相撲大会は九月十八日午後一時から元町一丁目神明神社相撲場で十六チーム、八十五人が参加して熱戦を繰り広げました。

折から勝山三大祭のしめくくりの神明祭とあって、境内の相撲場の観客席は超満員、約千二百人が観戦、気合いのこもった立ち合いに湧いていました。

激戦の結果、昨年に続いて荒土Aチームが連続優勝を果し、個人戦では、村岡の大谷選手が強豪をなぎ倒し初優勝を飾りました。

一方、市民会館では小・中学校理科作品展、北陸銀行横では

第七回地区対抗相撲大会

土俵に熱戦

荒土Aが二年連続優勝

△団体戦
優勝 荒土A(布川、鶴岡、笠松)
次勝 勝山B(織田、酒井、川上)
三位 鹿谷(藤堂、斎藤、松名)

▽個人戦
優勝 大谷正弘(村岡)
次勝 布川茂次(荒土)
三位 鶴岡茂(荒土)

役所(国・県・市町村・公社)の仕事について、不平、不満、意見、要望をお持ちの方は、気軽に地元の行政相談委員か福祉行政監察局に申し出て下さい。

秘密を守り、無料で取り扱います。申出の内容を関係の役所に連絡し解決を促進します。

行政相談委員は民間の有識者の中から行政管理庁長官が委嘱し、各市町村におかれています。勝山市は、血沢徳志さん(元町二丁目)が行政相談委員になつておられます。

ことし十月十二日から十八日まで行政相談週間が実施され、週間中次の行事が市と行政相談委員と共同で開かれます。遠慮なくご利用ください。

■十月十三日午後一時三十分から四時、市政広聴員と行政相談委員とのつとよい 市民会館
■十月十五日午前十時から午後三時まで、行政相談定例相談 市民会館

行政相談をご存知ですか

最近、「ゼンソク」の要因となるセイタカアワダチソウ、ブタクサの撲滅運動が全国各地で展開されています。県内でも福井市や今立町などでもこの害草の撲滅に力を入れています。

勝山市内でもかなりセイタカアワダチソウが繁殖しています。ブタクサは現在のところ市内には見当たらないようです。

これらの害草はいずれも北米原産のキク科の帰化植物で、全国各地で繁殖しつつあります。セイタカアワダチソウは、高さが三メートル伸び、晩秋のころ多数の黄色い花をつけます。繁殖力が非常に強く、ほかの植物を絶やしてしまします。

この花粉が飛び散り、人体に入るとゼンソクや鼻炎を起こします。小児ゼンソクの三〇％はこれらの花粉が原因だと、医師は警告しています。

こうしたことから、市内で繁殖しつつあるこの害草を退治しなければなりません。写真のような草を見かけたらすぐに刈り取り、除草剤をまくなどして、この恐ろしい害草を撲滅しましょう。聞くところによると仏花にしたり、生花の材料に使用している人もあるそうですが、そのようなことはやめて、みんなが協力してセイタカアワダチソウを退治しましょう。

前進座公演

福井県芸術劇場
10月27日(月)午後6時開演
市民会館大ホール

山本五郎 原作

入場料 一般 ¥800 学生 ¥600

主催・福井県教育委員会・勝山市教育委員会

ゼンソクを起こす外来草をみんなで見つけよう

ゼンソクを起こす外来草をみんなで見つけよう

池波正太郎



杉本苑子



三浦哲郎



文芸春秋「文化講演会」 「蘭子ひとり」の三浦氏ら

10月21日市民会館

文化の秋を迎え、第一弾として市民待望の文芸春秋「文化講演会」が来る十月二十一日午後六時三十分から市民会館大ホールで開かれることになりました。市民のみならずの来聴を歓迎します。

文芸春秋の「文化講演会」が本市で開催されるのは、今回で四回目。県下でも開催回数が多い、私たちがこの恩恵を享受するものにならなくてはなりません。

今回の講師は、直木賞受賞作家池波正太郎氏、同じく直木賞受賞の杉本苑子氏、芥川賞受賞の三浦哲郎氏の三氏で現在中央文壇で華々しく活躍されています。

講師のプロフィール

池波 正太郎

大正十二年東京浅草に生まれる。昭和二十一年下谷区役所に勤務、この年「雪晴れ」が読売新聞演劇文化賞に入選した。二十三年より作家長谷川伸氏に師事し、以後新国劇の脚本「血闘高田馬場」「黒雲谷」等多数を

執筆した。三十二年には「恩田木工」で直木賞候補となり、三十五年「錯乱」で第四十三回直木賞を受賞。「鬼平犯科帳」「必殺仕掛人」等、多くテレビドラマ化され、視聴者に親しまれている。

杉本 苑子

大正十四年東京に生まれる。千代田女子専門学校国文科を経て、文化学院文科を卒業、能に興味を持ち、世阿弥を研究した

三浦 哲郎

昭和六年青森に生まれる。早稲田大学政経学部を経て、同大文学部に進学、在学中から認められ、昭和三十年「十五歳の周園」で第二回新潮同人雑誌賞(現新潮新人賞)を受賞。三十五年には「忍ぶ川」で第四十四回芥川賞を受賞した。また三十八年から三十九年に書かれた新刊小説「蘭子ひとり」がNHKテレビで放映された他、児童文芸、随筆などにも多彩な活動を続けている。現在「文芸春秋」に「少年讀歌」を執筆連載中。

消費者物価指数とは

私たちが日常生活を営むためには、たくさんの商品を購入したり、サービスを受けているわけですが、これらの商品やサービスの値段の上がり下がりによって、動きが、全体としてどうなっているか、いわば平均的にみて、どのくらい値上がりしているか、

あるいは値下がりしているかを示すのが消費者物価指数です。ひとつひとつの商品やサービスの料金は、たとえばお米は十キログラム二百円、大根は一本百円、ワイシャツは一枚千五百円、風呂代は一回百円、電気代は一キロワットアワー十二円というように、みんな値段がついています。そして、この値段は一般には需要と供給の関係によって、ある時は上がったたりある時は下がったたりしています。ところで、物の値段は、米であればキログラムを単位として売られていますが、ワイシャツは一枚、風呂代は一回というように、ものによって値段の単位が違ってきます。

豊かさってなんだろう

みんなの消費生活展

最近における消費生活上の諸問題の実態を消費者に紹介し、消費者意識の高揚を図るとともに、消費者に自由な立場、自由な行動のもとで、消費生活に関する正しい知識を吸収してもらおうとする消費者教育の一つの形として実施されます。

かつやま、同時に個々の問題提起のなかから、消費者が真に豊かで快適な生活をおくるにはどうしたらよいかを消費者自身が考え、消費者問題を正しく認識する場として開かれます。

■主催 福井県、福井市、福井県貯蓄推進委員会

合は、比較の基準となる時点を選び、その時の物価水準に対して、比較する時点の物価水準が平均してどのくらい上がっているか、または下がっているかという比率のかたちでみることにあります。

戦前、比較的物価が安定していた昭和十年頃にくらべてみると、当時は、米が一升三十六銭、味噌が一貫目八十銭、風呂代が大人五銭、大工さんの手間代が一日約二円と、現在の感覚からすれば非常に安かったものです。が、今では米が標準価格で十キログラム二百五十円、味噌が一キログラム二百五十円、風呂代が一回百円、大工さんの手間代が約八千円にもなっています。

戦前の昭和九年から十一年平均物価水準と比べると、今年の五月の物価は平均して当時の九百八十一倍になっています。おおかまに約千倍とすれば、当時の一円で買えたものが、今では千円出さないと買えないことになりました。それだけお金の値打ちが下がったわけでお金の価値をみると、当時の千分の一に下がっていることになりました。

保留地(予定地)の公売 競争入札について

滝波土地区画整理組合事業 勝山市役所二階第二会議室
地区内の保留地の公売競争入札を次のとおり行います。物件の所在図、各筆の地積等は各公民館にあります。詳細は組合事務所(市消費生活センター)にお尋ねください。

滝波土地区画整理事業地 防務署電話八局一〇一内線
区十一街区一番の土地(二八四)にお尋ねください。
地四八六、一六平方メートル
か十九筆
入札の日時 昭和三十九年十月十五日午前九時
昭和三十九年十月十五日午前九時
入札の場所 滝波土地区画整理組合

あなたも健康を守るため 医学講演会に 参加しましょう

勝山市国民健康保険では、毎年市民の健康教育の一環として医学界の権威を招いて講演会を開いていますが、これは農山村医学研究の権威である千葉大学の内田昭夫教授をお招きすることにいたしました。この機会にぜひご聴講ください。なお当日は血圧測定をはじめ、医師による無料健康相談も行います。

日時 十一月二日(即午前十時より) 市民会館大ホール

講師 千葉大学教授 内田昭夫 先生
無料健康相談 午後一時～三時

婦人のつどい 近づく

毎年文化祭の一環として開かれる「勝山市婦人のつどい」がことしも開かれます。日時は十一月二日(即午前十時)から、市民会館が会場です。内容は、講演会、国際婦人年に思う、をテーマにパネルディスカッション、それから各地区での活動発表があります。ぜひ合わせて市民会館へ出かけましょう。

展示会場では「健康を守る展示会」があります。

日	場	実施時間
10月21日(内)	野北市民会館	午後1:30~2:00 2:30~2:50
10月22日(内)	向谷市民会館	1:30~2:30 1:30~2:00
10月23日(内)	向谷市民会館	1:30~2:50 1:30~2:00
10月24日(内)	野北市民会館	1:30~2:00 1:30~2:00
10月28日(内)	野北市民会館	1:30~2:00 1:30~2:00

気をくばれ
子ども 自転車 おとしより
横断用の黄色い旗はみんなの
安全を守る旗です 使ったら必ず 旗立へ